

瀬戸内海分校プロジェクト

海は人を愛する

プロジェクト概要

香川県・東京藝術大学連携事業「瀬戸内海分校プロジェクト」は、海洋環境を想う「海は人を愛する」をメインテーマに、東京藝術大学が派遣する国内外で活躍中のアーティストと中学生・高校生らがチームを組み、フィールドワークや作品制作、展覧会の準備・開催を行うことで、作品の企画立案から展覧会開催に至るまでの一連の流れを実践的に学ぶプログラムです。3年目の今年は「ひとと海」をサブテーマに、瀬戸内海とそこに住む人々の関係について理解を深めながら、展覧会開催までのプロセスをアーティストとともに考え、創り上げていきます。

リサーチ・企画編

日程：2024年8月5日(月)～9日(金) 9時～17時
会場：香川大学せとうち芸術未来研究場(高松市庵治町)、その他県内各地などを予定(貸切バス・チャーター船での移動)
内容：瀬戸内海等についてのリサーチ(調査・フィールドワーク)と展覧会の作品企画
対象：県内在住の中学生・高校生24人(応募者多数の場合は抽選とします。)
参加費：無料
募集締切：2024年6月21日(金)

■今後のプロジェクトの予定 制作編：8月末～9月の土日祝日に開催 展覧会：10月～11月初旬開催
※制作編等にもぜひご参加ください。

■本プロジェクトでは記録として写真や映像を撮影します。撮影した写真や映像は、カタログや出版物、ウェブサイト等で掲載する場合がありますので、あらかじめ、撮影・掲載にかかる承諾書を提出していただきます。なお、ご承諾いただけない場合は、ワークショップ等の運営上、参加をご遠慮いただくことがあります。(未成年者は保護者の同意が必要です。)



- 応募方法：Google form(URLと二次元コード)で申し込み <https://forms.gle/xVnzsgdPTxmVZBsp9>
- 必要事項：氏名(ふりがな)、学校名、学年、連絡先(電話番号)、住所、希望分野(メディア表現、イラストレーション、絵画・インスタレーション、写真・インスタレーション)
- お問合せ先：香川県文化振興課 文化芸術グループ 電話：087-832-3785(平日9:00～17:00) FAX：087-806-0238

“刺激的な夏休みの5日間”がココに！！

Artist アーティスト



Kuwabara Toshiyuki

栞原寿行

事実性や現実感、知覚、心理、情動への影響を及ぼす経験や体験を成立させているものに注目し、「みる・みえる・みられる」周辺領域の潜在的な可能性と問いについて作品制作と研究の両面で活動を続ける。近年では独自の4Dスキャン（Volumetric Capture）スタジオを構築・運用しながら、今日的な肖像の記録と表現について実践的に捉える「shashin1799.org」プロジェクトを主催。

第16回 岡本太郎現代芸術賞 特別賞受賞。主な展示会に第16回 岡本太郎現代芸術賞展（岡本太郎美術館）、岐阜 おおがきビエンナーレ 2013、ヨコハマトリエンナーレ連携企画“東アジアの夢”（BankART NYK Studio）など。

メディア表現



Nii Toshinori

新居俊浩

1992年徳島県生まれ。2017年東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。広告イラスト制作会社を経て2020年からフリーランスイラストレーターとして活動。卒業制作では街頭アンケートを取り、それぞれにまつわる物事を装備としてまとめているポートレートを制作。他者と交流することや、描くことの外側にある面白さ、そして作品と社会とのつながり、在り方を強く意識する契機となる。現在はクライアントワークにおいて広告KV、TV・WebCM、パッケージ、OOH、書籍等、媒体や作風を問わずイラスト・ビジュアルを制作。その傍ら、個人制作では人物をメインにニュートラルな表現で非現実な世界を描く。

イラストレーション



Numata Yuka

沼田侑香

1992年生まれ、千葉県出身。交換留学生に採択され2019-2020年ウィーン美術アカデミーに留学。2022年東京藝術大学大学院修了後、国内外の展示に積極的に参加し、現代アーティストとして活躍している。インターネットが日常的に使用されるデジタルネイティブ世代に生まれた沼田は、デジタル社会へと移行する現代の時代性に焦点を当てながらリサーチをベースに現実と仮想空間について考察している。

2024「100年後芸術祭」/市原エリア

2024「クリテリウム100」/水戸芸術館（野村財団奨学金助成採択）

2023「POSITIONS Berlin Art Fair」/Berlin/ドイツ

絵画・インスタレーション



Miyawaki Shintaro

宮脇慎太郎

1981年香川県高松市生まれ。大阪芸術大学写真学科卒業後、日本出版、六本木スタジオなどを経て独立。大学在学時より国内外への旅を繰り返したのち、2009年から高松を拠点に本格的な写真活動開始。辺境・辺縁で生きる人々や、マイノリティーが浮き彫りにする命の流れと聖性を追求。

2022年にはリアス式海岸が続く南予沿岸地域を6年間撮影した『UWAKAI』を刊行。同年に初のノンフィクションとしてインドのゴアと屋久島、二つのヒッピーの聖地を旅した『流れゆくもの～屋久島・ゴア～』を出版。2002年大阪芸大卒業制作展にてホースマン賞受賞。瀬戸内国際芸術祭公式カメラマン。2020年香川県文化芸術新人賞受賞。

写真・インスタレーション

<https://www.tua-kagawa.com>



昨年の様子など瀬戸内海分校プロジェクトの詳細は、ウェブサイトにて。（情報は、順次更新します。）

■前年度参加者の声

・少しでも興味を持ったら参加すべき（中3）・最初は緊張するけれど、終わった時の達成感、充実感がとてもいい！（高1）
・芸術が好きなら、藝大にあこがれを持っている方、ぜひこの分校プロジェクトに参加してみてください！間違いなく刺激的なインスピレーションを受けます！！（高1）
・外で活動することが好きな人や自然と触れ合いたい人など、様々な人にもおすすめします。（高1）
・5日間大変なことも多いけど、とっても良い夏の思い出ができるので、芸術に興味がある人にもない人にもおすすめ！！（高2）
・普段そんなアクティブじゃないとか、リサーチ？難しそう…と思っている子もぜひ来てほしい。考え方や、新しい友達とのおもしろいこと、発見がいっぱいあると思います！（運営スタッフ）

主催 香川県 / 東京藝術大学 / 香川大学
（監修 東京藝術大学 学長 日比野 克彦）

